

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第52号

発行:2016年12月16日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
☎・FAX 082-428-0160・082-428-1360

除夜会並びに元旦会

日時 12月31日(土) 23:30~24:30頃

場所 天龍寺 本堂



御正忌(おたんや)法座

日時 1月19日(木)

ご講師 松林 行圓師(安芸高田市 善立寺住職)

朝席 9時~11時頃

昼席 13時~15時頃



第63回 歎異抄輪読会のご案内

日時 1月19日(木) 19:00~20:30頃

場所 天龍寺本堂

講師 松田 正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です



報恩講に多数ご参詣をいただきありがとうございました。

11月16日(水)に当山で報恩講並びに秋季永代経法座を務めさせていただきました。その際には、多数のご参詣をいただき、さらには11月15日～11月16日にかけて、大変お忙しい中、仏教壮年会のみなさまをはじめ、国道以北の旧宗吉の方々、さらにこの度は、国道以南の方々のお手伝い・準備もしていただきましたこと、書面をお借りしまして厚く感謝申し上げます。

伝灯奉告法要 第2班 本山参拝と京都・湯の花温泉の旅のご案内

昨年6月に、西本願寺のご門主の法統継承式が執行され、専如様が第25代門主になりました。それに伴い法要が行われています。私は、10月に志和・八本松の方々とは法要に参拝させていただきました。以下に書かせていただいておりますが、第2班が平成29年4月25日(火)～4月26日(水)に計画されております。以前、この件に関しましては、ご案内をさせていただきましたが、時期も近くなり再度ご案内をさせていただいたことでもあります。多数の方のご参加をいただければありがたいと存じます。

- 1 旅行日時 平成29年4月25日(火)～4月26日(水)【1泊2日】
- 2 定員 80名
- 3 旅行代金 42,000円(参拝懇志含む)
- 4 申込方法 下記申込書に申込金1万円を添えて、平成29年2月28日(火)までに最寄りの寺院へお申し込み下さい。(あわせて帰敬式をご希望の方は、冥加金1万円を別途添えてお申し込みください。)
- 5 行程
4月25日(火)
各地・・・(貸切バス)・・・小谷SA(6:20～40)・・・《山陽道・名神高速》・・・大谷本廟(11:00～12:10)・・・北境内地(12:30 昼食)・・・西本願寺【伝灯奉告法要参拝→帰敬式又は本山周辺散策】(13:30～17:00頃)・・・《名神・京都縦貫道》・・・湯の花温泉(17:50 拍)

4月26日(水)

ホテル(8:30)・・・《京都縦貫道》・・・嵯峨野・二尊院(9:20～10:40)・・・国宝 仁和寺(11:00～12:30)・・・高雄清滝川の浅敷(13:00 昼食)・・・京都南IC(15:10)・・・《名神高速・山陽道 夕食弁当》・・・小谷SA(19:10～19:30頃)・・・各地

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・切り取り線・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

志和組 伝灯奉告法要 第2班 参拝旅行1泊2日の旅 申込書

- 1 氏名 _____ (男・女) 年齢 _____ 歳
- 2 連絡先 〒 _____ 住所 _____ 電話番号 _____
- 3 帰敬式 (受ける・受けない) ※生年月日(帰敬式を受ける方) _____ 年 _____ 月 _____ 日
- 4 たばこ(吸う・吸わない) アレルギー(_____)

混迷の時代が来るのでしょうか。

イギリスのEU離脱に始まり、アメリカでは多くの予想とは違うトランプ氏が大統領になり、さらにはヨーロッパでは、来年にフランス・ドイツ等で大きな選挙が控えています。この流れは、自国の利益をより優先させる流れになってきていると解釈しております。

第2次世界大戦が終結し約70年が経過し、東西の冷戦が終わり、世界はよりよい方向へ進むのかとも思われていました。しかし、今述べましたようにグローバル化から反グローバル化に進んでいるように思えるのは私だけではないと思っております。

この様な波は決して日本にとって良い方向ではないと個人的には思っております。偉そうに申しませんが、日本は豊かな国土・資源もなく、ある意味他国から原材料を安く買い入れ、それに付加価値をつけて他国に売り、その差益でこの国は成り立っている部分が多いと思っております。

そのような事をふまえますと、今申しました様な世界の潮流は、日本にとっては如何なものかと思う事でもあります。

それぞれの国が自国の利益を優先させる事は、当然だと思ふ反面、あまりにも自国の利益を優先させすぎると、その先に待っている物は何かとも考える事です。

個人的には、今変わろうとしている世界の流れは、世界史的に見て大きな転換点になる恐れもあると考えもします。

寺報「無碍の一道」には、極力政治的な発言はしないつもりでいましたが、天龍寺ご関係をいただいています方々には、大変失礼とは思いましたが、私の想像することが、想像で終わってくれることを願うばかりです。

全てのご縁をお念仏のご縁に（I）・・・

還暦近くになりしみじみ思いますに、様々な縁が重なりあい、日々の出会いがあると思っております。偉そうな言い方になるかもしれませんが、歌手の中島みゆきさんの代表作「糸」で表現されています『縦の糸、横の糸』ではありませんが、様々な縁を糸に例えるならば、目に見えない様々な糸が紡ぐ中での出会いだと思ふ事があります。仮にその一本の糸がなければ、違った出会い、すなわち違った「ご縁」になるのではないかと思ふ事があります。その意味で「ご縁」とは、本当に不思議な物を感じます。

その意味から考えますに、ありがたさを感じなければいけないのですが、残念ながら毎日不平・不満・愚痴の毎日をおくっている私でもあります。

また経済的な問題、家庭・近隣・職場その他諸々に関わっている所での人間関係、健康問題等、様々な悩み・苦しみ等に疲れ果てて生きていけなくてはならず、さらには将来への不安・悩みを想像しながら、この一度の娑婆の人生をおくっていけなくてはならないと思ふことがあります。

一方で、私たちは、様々なご縁により、様々な環境・状況が与えられます。私の拙い人生を振り返っても日々与えられる環境は、自分の望む環境、自分にとって望まない環境等であったと思ひます。

少し高飛車な言い方になりますが、自らの意思等で、自分の願う環境を得たいと思ひ、色々と自分なりに努力をしたこともありますが、その多くは、自分の願ひとは違う環境であったかと思ひます。恥ずかしい事ですが、その与えられた環境下で、不平・不満等を言いながら、自分なりに生きてきたのではないかと思ふ事があります。まさしく「^{ずいえん}随縁」の言葉の如く、「ご縁」に従って生きていくしか出来ない人生かとも考える事があります。

仏教では、生活を「生^{しょう}」と「活^{かつ}」に分けて考えると以前ご指導をいただいた事がありました。

日頃、私たちが使用しています「生活」は、仏教では「活」と表現するそうです。

例えば小学生の宿題、中・高生の受験、社会人になり職に就き働く事等は「活」になり、とどのつまりは食べていく事に終始していることを言います。

私は、来年で還暦を迎えます。先般、友人と話をしてしていると「65歳まで働けるが、60歳になったら会社を辞めようと思う。実家の島のみかん畑等をしながら、ゆっくり生きていくよ。」それに対して同席していました友人が「おれも60歳になったら辞める。」

一般社会では、還暦を迎えますと多くの方が、子どもが独立し手が離れ、勤めていた会社等を辞められる時期なのかもしれません。

偉そうな事は申せませんが、「活」が終わると、自ずから「生」が重きを持ってくるようになるのかと考える事があります。簡単な言葉で言えば、「生きがい、何のために生きているのか。」等ででしょうか。一方で、私の少ない経験の中で申したなら、突然の大病等により今述べました様な事を考える機会となったこともありました。

「活」で忙しい時期、すなわち子育て、会社等で一生懸命仕事をしている時期等には、今申しました様な「生」の事は、目の前の事に追われあまり考える事は無いと勝手に思う事もあります。

しかし、「活」が一応終わりますと「生」という問題を考えるようになるのかもしれません。ある方が「活を貫く生という問題を解決すれば、その生は活を貫く」と書かれていました。この点から申すならば、書かれていましたが「生活の全てが、意味づけられる。」とでも申しませうか。

少し意味が違うかもしれませんが、「何故この様な苦しい事に遭わなければならないのか。」「何故この様な悲しみに遭わなければならないのか」等々、世間で味わう不安・恐怖・悩み・苦しみ、思いもかけない悲しみ等々の全てが、意味づけられると考えたことでもあります。

これもその方が書いておられましたが、「全生活を貫き通し、私の生涯を意味あらしめる教えを持つ。」その様な教えに出遭い、ただただ苦しみ・悩み・不安・恐怖・後悔・反省等を繰り返すだけのむなしい人生で終始するのではなく、順縁・逆縁も含め人生全てのご縁を南無阿弥陀仏のご縁として歩む人生へと少しでも転換できることが出来れば、ありがたいと思う事でもあります。

さらにとっても難しいことではありますが、「人生成就の為のお念仏から、念仏成就の為の人生」へと私なりに味わう事ができれば、この点もありがたいと還暦近くなりしみじみ思う事でもあります。

ただ一方で、目の前に起こった現実を現実として粛々と受け止めていく人生は、今述べましたようにとても難しい事と思う事でもあります。

故に田んぼで咲く蓮の花の如く、不平・不満・愚痴・嫉妬等を繰り返しながら、自分の与えられるご縁、すなわち自分の田んぼが濁り・汚れ等をしながら、自分なりの花を咲かせていく所が出来ればと思う事もあります。